どの作品もせん細でしかもきれいな仕上がりになっていた。
1つ1つの作品にその作者のこめた思いが現れ出ていた。
クイズで楽しみながらかんしょうをすることができた。
その時代のその時のじょうけいがうつしだしてあったり、か空の世界があらわれていたりとおもしろかった。
もっと美術作品をたくさんみたりしたいと思った。
さまざまな工芸のやり方の作品をいっきにみることができた。
石川にはほこれる人たちがたくさんいるんだなと思いました。

私がいちばん心に残ったのは、「桐造寄木象嵌文箱」という作品です。ほかの作品のようにぬって色をつけるのではなく、模様をつけたい所を掘ってそこにほかの木をはめこんだり、貝をはめこんだりしている作品でした。私はこのような技術を見たことがなかったので、技術のすばらしさに感動しました。絵の中の音を感じ取るのもおもしろかったです。
貴重な経験になりました。

陶器の絵を見て、赤絵龍図花瓶などは、
平面ではなく、立体に書いてあったのに、龍の絵が
本物(想像)のようでした。
絵画の方で、「こはんの舟」は、止まっている舟が
周りを静かにしている雰囲気があって、
色使い・描写で人に色んな事を想わせるなと思いました。

全ての作品において、とても細かいところにこだわって
作っていたのが、よく分かりました。
いい体験ができたので良かったし、ああいうすごい作品を
みて、すごいと見極められるようになりたいです。

美術展にはたくさんのもへがかざってありました。木をほってまた別の木をはめこんだり、貝をはめこんだりして細かいところまでこだわっていた作品があってすごくおどろきました。よくみると彩色に光っている作品があったりしていつもより作品をゆっくり見て感じることができました。
クイズをして、楽しみながらたくさんの作品を見たり考えたりできていい機会になりました。

僕は平文南飛の箱がとても気に入りました。
理由は、たくさんの鳥がいっせいに飛んでいる絵がとても印象に残り美しいと思ったからです。
もっとたくさんの作品と出会い想像力を深めていきたいと思います。

葆光彩磁チューリップ文花瓶をみて、他の作品とは違うぼかしを使っていて、すごくきれいだと思いました。
作者の板谷波山さんは、元々彫刻家だったのが陶磁器を作る人になり、才能を開花させたのは、すごいと思いました。

いろんな漆器があって見ていておもしろかったし、
一番きれいだったのは、大海のいすで、なぜかというと、ねこを本物ぽくなっていてすわっている様子が本物のねこみたいだったからです。
あと、海の中をイメージした絵では、すい中の中にはどんなものがあるのかなどを書いた人は想像して書いたんだと思いました。